



Nikon<sup>(th)</sup>  
100  
anniversary

# 第154期 中間報告書

2017年4月1日 ▶ 2017年9月30日



## デジタル一眼レフカメラ「D850」を発売 ▶ P05

### Contents

株主の皆様へ	▶ P01
事業別の概況	▶ P03
ニュース・フラッシュ	▶ P05
米国のAthersys, Inc.と受託生産契約を締結 ESGインデックスの構成銘柄に選定 <small>ほか</small>	
会社概況・株式の状況	▶ P07

株式会社 **ニコン**

証券コード：7731



代表取締役 兼  
社長執行役員

牛田 一雄

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第154期中間期(2017年4月1日～2017年9月30日)の事業の概況についてご報告申し上げます。

#### ■ 当中間期の概況

当第2四半期連結累計期間の経済状況は、我が国経済は個人消費や設備投資が持ち直すなど、回復基調が続きました。また、米国経済は堅調な個人消費を背景に拡大を続け、欧州経済は回復基調を維持し、中国経済は持ち直しました。

事業別では、映像事業においては、レンズ交換式デジタルカメラ市場は縮小傾向が続きました。一方、コンパクトデジタルカメラ市場は昨年の熊本地震による部品供給不足が解消したこともあり、回復傾向が見られました。精機事業においては、FPD関連分野及び半導体関連分野ともに、設備投資は好調に推移しました。ヘルスケア事業においては、バイオサイエンス分野は政府予算執行遅延の影響等により低調

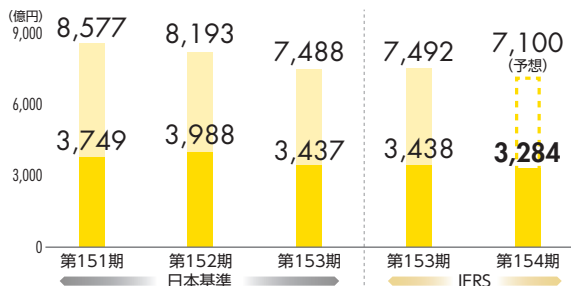
に推移した一方、眼科診断分野では網膜画像診断機器市場が堅調に推移しました。

当社は、当事業年度を2016年11月に発表した構造改革の「第2フェーズ」と位置付け、「半導体装置事業の黒字化実現」、「映像事業の収益モデル強化」、「経営体質改善への本格的な着手」の3つを経営方針とし、コスト構造の抜本的な見直しや事業パフォーマンスの新しい管理プロセスの運用などに取り組んでまいりました。

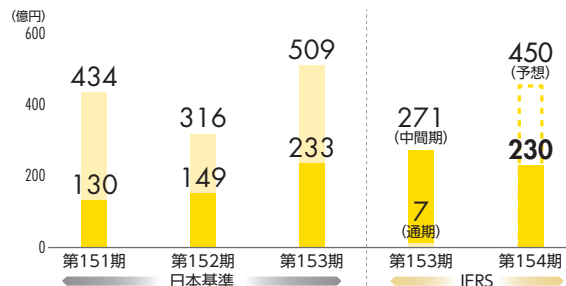
当第2四半期連結累計期間の業績については、構造改革による固定費の削減や円安の影響はありましたが、FPD露光装置の販売台数減少により、売上収益は3,284億50百万円、前年同期比153億63百万円(4.5%)の減少、営業利益は230億17百万円、前年同期比41億32百万円(15.2%)の減少、税引前四半期利益は214億56百万円、前年同期比80億46百万円(27.3%)の減少、親会社の所有者に帰属する四半期利益は139億45百万円、前年同期比82億20百万円(37.1%)の減少となりました。

なお、未定としておりました中間配当金は、1株当たり14円とさせていただきます。

■ 売上収益 ■ 中間期 ■ 通期

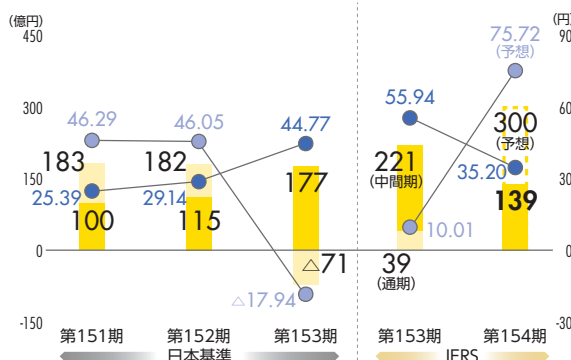


■ 営業利益 ■ 中間期 ■ 通期

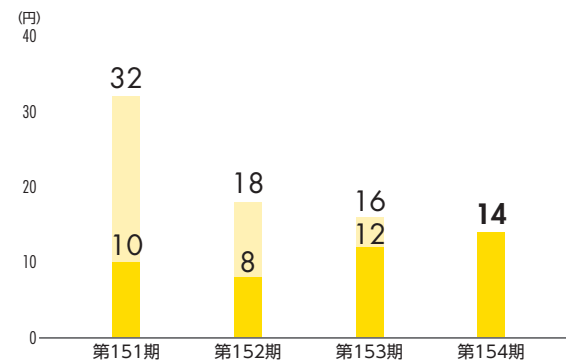


■ 親会社の所有者に帰属する当期利益 ■ 中間期 ■ 通期

● 基本的1株当たり当期利益 ● 中間期 ● 通期



■ 1株当たり配当金 ■ 中間 ■ 年間



※第151期～第153期は従来の日本基準に基づいており、「売上収益」は「売上高」の、「親会社の所有者に帰属する当期利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」の、「基本的1株当たり当期利益」は「1株当たり当期純利益」の数値を記載しています。

※第154期の1株当たり期末配当金は未定です。

詳しい財務情報は当社ホームページをご覧ください。 <http://www.nikon.co.jp/ir/>

ニコン 投資家情報

検索

■ 通期の見通し

売上収益は、2017年8月の第1四半期決算発表時の予想(前回予想)に対し、映像事業でのデジタルカメラの販売台数の増加による増収が見込まれます。しかしながら、営業利益は、映像事業での増収及び経費の効率化による収益の増加や、精機事業での収益改善の進展があるものの、映像事業の生産子会社の操業停止に伴う構造改革関連費用の計上もあり、前回予想値を維持します。また、親会社の所有者に帰属する当期利益は、映像事業の構造改革に伴う税効

果の消滅による税金費用の増加を反映し、前回予想を下回ることが見込まれます。

当社は、今年7月、創立100周年を迎え、次の100年に向けた新たな経営ビジョンを策定しました。「信頼と創造」という企業理念のもと、新たな経営ビジョンを掲げ、次の100年の礎を築いていきたいと思ひます。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2017年11月

新経営ビジョン策定

経営ビジョン

Unlock the future with the power of light

光の可能性に挑み、進化し続けることが、私たちニコンの個性です

世界のいたるところにニコンの光が溢れ、人々に寄り添っている  
そんな未来を私たちは想い描いています

ニコンは光で未来を変えます

心掛け

好奇心

常に変化を楽しみ、広く興味を持つことで、新しい発想を生み出します

親和力

誠実な心で様々な価値観を受け入れ、多様性を尊重します

伝える力

自らの考えを伝え、共有することで、大きな流れを創り出します

## 事業別の概況

### 映像事業

売上収益 1,752億17百万円  
前年同期比 1.7%減

営業利益 154億48百万円  
前年同期比 4.1%増

#### 主要製品

レンズ交換式デジタルカメラ・  
コンパクトデジタルカメラ・  
交換レンズ・フィルムカメラ・  
望遠鏡



デジタル一眼レフカメラ「D850」

#### ■ 当中間期の概要

レンズ交換式デジタルカメラにおいては、高精細な描写と高速連続撮影を両立させたデジタル一眼レフカメラ「D850」など、高級機の販売が堅調に推移しました。特に米国ではデジタル一眼レフカメラ全体で販売台数を大きく伸ばしましたが、米国以外の市場では販売が伸び悩み、売上は減少しました。

コンパクトデジタルカメラにおいては、熊本地震による部品供給不足からの回復に加え、高性能アウトドアモデル「COOLPIX W300」など高付加価値製品が好調に推移したことにより、売上げを伸ばしました。

これらの結果、当事業の売上収益は1,752億17百万円、前年同期比1.7%の減少となりましたが、構造改革による収益性改善や経費抑制に努めた結果、営業利益は154億48百万円、前年同期比4.1%の増加となりました。

#### ■ 通期の見通し

デジタルカメラ市場は縮小が続き、各カテゴリーで販売台数が減少することが予想されます。売上収益は3,550億円、営業利益は250億円となる見込みです。(前期は売上収益3,830億円、営業利益171億円)

### 精機事業

売上収益 980億67百万円  
前年同期比 15.0%減

営業利益 201億73百万円  
前年同期比 19.7%減

#### 主要製品

FPD露光装置・半導体露光装置



FPD露光装置「FX-68S」

#### ■ 当中間期の概要

FPD露光装置分野では、高精細大型パネルの生産に対応した「FX-86S2」が販売台数を伸ばしましたが、中小型パネル用装置の販売台数減少により、減収となりました。

半導体露光装置分野では、ArF液浸スキャナーの販売台数が増加しました。また、構造改革プランに基づき、開発費削減、採算性重視を徹底した生産・販売体制への転換、棚卸資産の水準の適正化等を推進した結果、大幅に収益を改善しました。

これらの結果、事業全体としては、FPD露光装置の販売台数減少の影響を受け、売上収益は980億67百万円、前年同期比15.0%の減少、営業利益は201億73百万円、前年同期比19.7%の減少となりました。

#### ■ 通期の見通し

FPD露光装置の販売台数減少に伴う減収のなか、構造改革による収益改善により、売上収益は2,250億円、営業利益は470億円となる見込みです。(前期は売上収益2,480億円、営業利益134億円)

**セグメント変更について** 当中間期より、2017年6月29日付で実施した組織再編に伴い、セグメントを従来の「精機事業」「映像事業」「インストールメンツ事業」「メディカル事業」「その他」から、「映像事業」「精機事業」「ヘルスケア事業」「産業機器・その他」に変更しました。なお、「ヘルスケア事業」及び「産業機器・その他」の前年同期比については、前年同期の数値を変更後の区分に組み替えて比較しています。

## 映像事業の生産体制最適化について

当社は、構造改革プランに基づき、収益力強化のための各施策に取り組んでいます。

このたび、グローバル規模での生産体制最適化に関する施策として、映像事業の生産子会社Nikon Imaging (China) Co., Ltd. (中国江蘇省無錫市) を、2017年10月30日をもって操業停止しました。

2002年6月の設立以来、デジタルカメラ、デジタルカメラ用ユニットの製造を行ってきましたが、コンパクトデジタルカメラ市場の縮小に伴い、操業停止の決定に至ったものです。一部の製品の製造はNikon (Thailand) Co., Ltd. (タイ) に移管する予定です。

中国は世界で最も重要な市場のひとつであり、上海市にある映像事業の販売子会社Nikon Imaging (China) Sales Co., Ltd.の業務は継続し、お客様にご満足いただける製品とサービスを提供していきます。

## ヘルスケア事業

売上収益 252億85百万円  
前年同期比 5.0%増

営業利益 △21億79百万円  
前年同期は△6億92百万円

主要製品

生物顕微鏡・細胞培養観察装置・  
超広角走査型レーザー検眼鏡



研究用倒立顕微鏡 [ECLIPSE Ti2]

### ■ 当中間期の概要

バイオサイエンス分野では、国内は堅調に推移したものの、海外は政府予算執行の遅れ等により低調となり、全体の売上げは前期並みに留まりました。

眼科診断分野では、超広角走査型レーザー検眼鏡の販売が北米で堅調に推移したことに加え、国内及びアジアでの販売が増加したことにより増収となりました。

これらの結果、当事業の売上収益は252億85百万円、前年同期比5.0%の増加となりましたが、新事業への先行投資等の影響により、21億79百万円の営業損失(前年同期は6億92百万円の営業損失)となりました。

### ■ 通期の見通し

バイオサイエンス分野では生物顕微鏡のシェア拡大による販売増を目指します。眼科診断分野では網膜画像診断機器市場は堅調に推移するものの、ビジネス拡大に向けた一時的な投資拡大により、売上収益は600億円、営業損失は40億円となる見込みです。(前期は売上収益557億円、営業損失6億円)

## 産業機器・その他

売上収益 298億80百万円  
前年同期比 14.8%増

営業利益 15億46百万円  
前年同期比 23.3%増

主要製品

工業用顕微鏡・測定機・  
特注機器・FPDフォトマスク基板



CNC画像測定システム  
[NEXIV VMZ-R4540]

### ■ 当中間期の概要

産業機器事業では、米国及びアジアの市況回復を受け、CNC画像測定システム及びX線検査装置を中心に増収となりました。

カスタムプロダクツ事業では、固体レーザーが減収となりましたが、光学部品は増収となりました。

ガラス事業では、FPDフォトマスク基板や光学素材の拡販に注力した結果、増収となりました。

この結果、これらの事業を含む売上収益は298億80百万円、前年同期比14.8%の増加となり、営業利益は15億46百万円、前年同期比23.3%の増加となりました。

### ■ 通期の見通し

産業機器事業では自動車や電子部品関連分野で評価が高いCNC画像測定システムなどを中心に販売の拡大に努めます。売上収益は700億円、営業利益は50億円となる見込みです。(前期は売上収益624億円、営業利益37億円)

今後の生産体制

主要な生産拠点を5拠点から4拠点へ

- 仙台ニコン
- Nikon (Thailand) Co., Ltd.
- 栃木ニコン
- Nikon Lao Co., Ltd.

一時費用

操業停止に伴い70億円程度発生(2018年3月期)

固定費削減効果

生産体制最適化に伴い100億円削減の見込み

市場縮小下でも  
適正な利益率を  
確保できる  
収益構造へ

Product

## 高精細な描写と高速連続撮影を両立させた デジタル一眼レフカメラ「D850」を発売



新開発の裏面照射型ニコンFXフォーマットCMOSセンサーと、画像処理エンジン「EXPEED 5」を搭載し、有効画素数4575万画素とISO 64～25600※1の常用感度域を実現。高感度でも鮮鋭感

を保ちながら効果的にノイズを抑制します。また、ボディー単体で約7コマ/秒※2、マルチパワーバッテリーパック「MB-D18」装着時で約9コマ/秒※2※3の高速連続撮影も可能。「D5」と同じ高速・高精度な153点AFシステムを備え、動きのある被写体をより確実に捉えます。多彩な性能・機能で映像表現の可能性を広げるモデルです。

- ※1 ISO 32相当までの減感、ISO 102400相当までの増感が可能
- ※2 AFモードがAF-C、撮影モードがS(シャッター優先オート)またはM(マニュアル)、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のとき
- ※3 Li-ionリチャージャブルバッテリー「EN-EL18b」(別売)を装着したマルチパワーバッテリーパック「MB-D18」(別売)使用時。「EN-EL18b」を使用する場合はバッテリー室カバー「BL-5」(別売)が必要

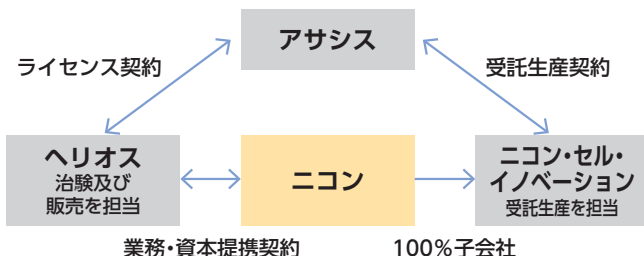
News

### 体性幹細胞再生医薬品の商用化に向けて 米国のAthersys, Inc.と 受託生産契約を締結

ニコンの子会社、株式会社ニコン・セル・イノベーションは、バイオテクノロジー企業Athersys, Inc.(アサシス)と、日本における脳梗塞の治療を目的とした体性幹細胞再生医薬品MultiStemの受託生産契約を締結しました。

ニコンと再生医療の実用化に向けた業務・資本提携契約を締結している株式会社ヘリオスが、MultiStemの日本での開発・販売ライセンスを保有し、脳梗塞急性期を対象疾患とした臨床試験を進めています。

ニコン・セル・イノベーションは、商用段階における受託生産実施に向けて、生産の準備を開始。アサシス、ヘリオスと協業して日本でのMultiStemの商用化を目指します。再生医療実用化の早期実現とともに人々のQOL(Quality of Life)の向上に貢献していきます。



News

### 産業機器事業のプレゼンスを高める 非破壊検査装置、非接触三次元測定機の デモンストレーション施設を開設

ニコンの子会社、株式会社ニコンインステックは2017年10月、横浜市栄区にデモンストレーション施設を開設しました。施設内には、航空機の機体部品や自動車の塗装前のボディなど、大型構造物の非接触計測が可能な「Laser Radar」を設置。日本を中心としたアジア地域のお客様に、世界的な市場拡大が期待される非破壊検査装置や非接触三次元測定機に触れただけでなく機会を提供します。

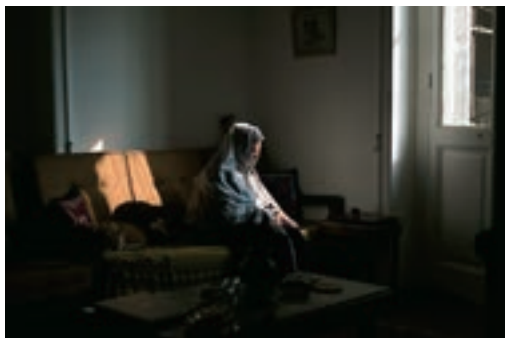
News

### 持続可能な社会に貢献する企業を評価 ESGインデックスの構成銘柄に選定

ニコンは、「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数」の3つの構成銘柄に選定されました。3つの指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が新たに選定したESG投資\*のための指数に選ばれています。今後も「信頼と創造」の企業理念に基づき、社会の持続的な発展に貢献していきます。

\*環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)への取り組みを投資判断の材料にする手法

## 世界170の国と地域から76,356作品がエントリー 「ニコン フォトコンテスト 2016-2017」 グランプリ及び入賞作品決定



ニコン創立100周年記念グランプリ「Greeting to the Sun」Annamaria Brunini氏

世界最大規模の国際写真コンテスト「ニコン フォトコンテスト」。今回は76,356点の応募があり、「ニコン創立100周年記念グランプリ」、「Next Generation部門」「一般部門」応募作品から選ばれた「グランプリ」、「応募者が選ぶグランプリ」のほか、入賞作品が選出されました。

## ニコン製品の信頼性・耐久性を実証 NASAからデジタル一眼レフカメラ 「D5」を53台受注



米国 航空宇宙局(NASA)から、宇宙飛行士の地上でのトレーニングや国際宇宙ステーション内外での撮影機材として、無改造の「D5」を53台受注し、納入しました。1971年、アポロ15号に「ニコンフォトミックFTN」が搭載されて以来、ニコンは宇宙研究活動を支援してきました。今後も過酷な環境に耐えうる信頼性の高い製品開発を通じて、研究に貢献していきます。

### ホームページのご案内

当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

[HP http://www.nikon.co.jp](http://www.nikon.co.jp)

ニコン

検索

## 欧州を代表する権威ある賞 「EISA AWARD」をデジタル一眼 レフカメラ「D7500」が受賞



「D7500」が、欧州を代表する権威ある賞「EISA AWARD」の「EISA PROSUMER DSLR CAMERA 2017-2018」を受賞しました。有効画素数2088万画素、ISO100～51200の広い常用感度域など、ニコンDXフォーマットデジタル一眼レフカメラのフラッグシップモデル「D500」が持つ革新性を軽量かつ堅牢なボディーに凝縮したモデルとして評価されました。

## 最先端のCLEMソリューションを提案 「JEOL-Nikon CLEMソリューションセンター」を開設

最先端のバイオサイエンス研究や材料開発研究において、光学顕微鏡と電子顕微鏡を連携させて効果的な観察・分析を行うCLEM\*へのニーズが高まっています。2017年9月、ニコンはこれまでCLEMソリューションの構築など協業を推進してきた日本電子株式会社(JEOL Ltd.)と共同で「JEOL-Nikon CLEMソリューションセンター」を開設しました。最先端のCLEMソリューションの提案やCLEMの普及推進を行い、新たな価値創出に貢献していきます。

\*Correlative Light & Electron Microscopy (光電子相関顕微鏡法)



# 会社概況・株式の状況 (2017年9月30日現在)

## 会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)  
 本社所在地 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
 TEL 03-6433-3600  
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日  
 資本金 654億76百万円  
 従業員数 単体 5,718名/連結 23,485名

## 役員

### 1. 取締役 ※ 社外取締役

代表取締役 牛田 一雄 岡 昌志  
 取締役 岡本 恭幸 小田島 匠 萩原 哲  
 根岸 秋男\*  
 取締役 常勤監査等委員 本田 隆晴 藤生 孝一  
 取締役 監査等委員 上原 治也\* 畑口 紘\* 石原 邦夫\*

### 2. 執行役員

社長執行役員 牛田 一雄  
 副社長執行役員 兼 CFO 岡 昌志  
 常務執行役員 岡本 恭幸 馬立 稔和 浜田 智秀  
 御給 伸好 村松 享幸 小田島 匠  
 萩原 哲  
 執行役員 岩岡 徹 吉川 健二 長塚 淳  
 平岩 弘之 杉本 直哉 中山 正  
 新谷 誠 濱谷 正人 鈴木 博之  
 池上 博敬 森本 哲也

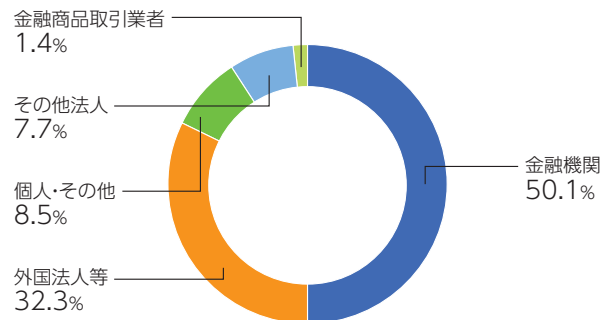
## 事業所

本 社 〒108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3  
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471  
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1  
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜<sup>みいずがほら</sup>ヶ原201-9  
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6  
 横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

## 株式の状況

発行済株式の総数 400,878,921株  
 株主数 28,875名

### 所有者別株式数分布状況



### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,640	9.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	28,012	7.1%
明治安田生命保険相互会社	19,537	4.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,480	1.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,378	1.9%
株式会社常陽銀行	6,801	1.7%
日本生命保険相互会社	6,710	1.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	6,580	1.7%
東京海上日動火災保険株式会社	6,042	1.5%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE THE KILTEARN GLOBAL EQUITY FUND	5,560	1.4%

(注) 持株比率は自己株式数(4,089,617株)を控除して計算しております。

本報告書は、注記のない限り、記載金額の億円表示は単位未満を切り捨て、記載金額の百万円表示及び株式数は単位未満を四捨五入しています。

## 株主メモ

事業年度 4月1日~翌年3月31日

期末配当金  
受領株主確定日 3月31日

中間配当金  
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

### 公告の方法

電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。  
<http://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 東京都府中市日鋼町1-1  
 TEL 0120-232-711(通話料無料)  
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※表紙の写真はD850で撮影したものです(撮影:Luke Austin氏)。



株式会社ニコン  
 108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
[www.nikon.co.jp](http://www.nikon.co.jp)

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

